

NEJIREBANE No. 113 10. Mar. 2005

南アルプス鳳凰山で種名不詳のフトカミキリ

An Unknown Lamiine Cerambycid from Mt. Hohwoh-zan, South Japanese Alps
by Kozo MIZUNO

水野 弘造

〒611-0002 京都府宇治市木幡熊小路 19-35

図示のフトカミキリ（体長 13 mm）は、細田倅市氏から送られてきた諸々の雑甲虫とともにタトウに広げて一年以上も放ったらかしにしていたものである。採集者・細田倅市氏からは変なものが採れたから、見てくださいと言ったのであるが、大阪市立自然史博物館で故・林 匡夫博士のカミキリコレクションの整理に明け暮れていた筆者はカミキリには食傷気味であったため、一瞥してヒメヒゲナガカミキリの羽化不全個体くらいに思い、そのまま忘れてしまっていた。大きさはヤマナラシノモモフトカミキリくらいで、触角が *Monochamus* のように繊細ではなく、ゴマダラカミキリのように太く強壯である。タトウから台紙にマウントして初めて、ただならぬ種であることに気付いた。早速図鑑類を捲ってみたものの、該当するものは見当たらない。わずかに韓国のチョウセンブチカミキリ *Lamiomimus gottschei* のシルエットに類似性を見たので、博物館所蔵のそれと比較してみたが、体長と体の厚みに大差が見られ、無関係のものであった。鞘翅の紋様を無視すれば、*Perihammus* 属の外形がかなり良く似ている。そもそも林コレクションは筆者一人で整理したので、その中に類似の姿形のものがあれば、すぐにピンときたはずである。

いまさらカミキリの系統分類の手順を踏んで万巻の書に当たって調べようとの気力も時間も無い筆者にとって残された道は、エキスパートに伺いを立てる以外にない。写真を電子メールで大林延夫博士に送って見ただていただいた。日本とその周辺地域には類似のものはない由で、北米あるいは南半球からの侵入種の可能性が高い。できれば研究させてほしいとの希望であるので、この標



図. 鳳凰山の不明のフトカミキリ.

本は大林博士に検討を委ねることとした。

なお後日、同じ画像を北米の Mr. Albert ALLEN に送って種名を尋ねたところ彼の友人のカミキリ屋 Mr. Jim COPE からのコメントとして、北米のカミキリではないこと、旧北区の *Acalolepta* 属ではないか、との回答を貰った。またニュージーランドやタスマニアで甲虫類の採集を経験しておられる上野輝久氏にも同様に画像判定をしていただいたが、このカミキリに類似のものは見ておられないようであった。

従って現在のところ、産地も分類上の位置も不明のままである。同じような標本を所持されている方は、ぜひとも資料提供に協力いただきたい。

写真標本のデータは次のとおり。

採集地: 山梨県韮崎市御座石鉱泉

(Gozaishi spa, Nirasaki, Yamanashi, Honshu, Japan)

採集日: 2001年6月27日

採集者: 細田倅市 (Kouichi HOSODA leg.)

韮崎市御座石鉱泉は日本甲虫学会の採集会を2年連続で開催したので、ご存知の方も多と思う。南アルプスの北部に位置し、日本の原始自然を色濃く残しているものの、甲虫相の調査結果では既に外来侵入種をかなり記録しており(コルリアトキリゴミムシ、イネミズゾウムシ、山麓でブタクサハムシ、フタホシサビカミキリ、マメマダラテントウなど)、環境の攪乱は進行中とみてよい。本種を外来侵入種と仮定した場合、発生源としては山麓、武川村の別荘群が考慮されよう。最近のログハウスには北米材は言うに及ばずニュージーランド材なども使用されているので、種の検索も世界規模で見る必要がある。長野県側ではあるが、同じ南アルプスからの標本で池田清彦博士によって記載されたツジヒゲナガコバネカミキリ *Tsujius itoi* K. IKEDA, 2001 は新属新種という強烈なインパクトで記憶に新しいが、分類学上のタクソンはともかく、日本古来の土着種であるか否かは今後の調査に待たなければならない。

本種の近似種が日本周辺にはないらしいという点から、外来種の可能性を強調したが、日本古来の種である可能性が初めからないわけではなく、オオスミヒゲナガカミキリのような大型新種の最近の例もあることなので、今後の検討を楽しみにしたい。

リュウノメクラチビゴミムシの地下浅層からの記録

A Record of *Awatrechus hygrobicus* from the upper hypogean habitat
By Kenji KITAYAMA and Masato MORI

北山健司

〒573-0066 枚方市伊加賀西町 2-6-410

森 正人

〒651-1432 西宮市すみれ台 2-2-5

リュウノメクラチビゴミムシ *Awatrechus hygrobicus* S. UÉNO, 1955 は、1953 年に徳島県加茂村龍ノ窟で得られた標本をもとにして、1955 年に記載された無翅無眼の洞窟性チビゴミムシで、アワメクラチビゴミムシ属の基準種である。残念なことに、基準産地である龍ノ窟は、1970 年代に石灰岩採掘により、そこに生息していた洞窟性の動物とともに消滅してしまった。その後、付近の採石場にあった石灰洞（醍醐の穴）でも生息が確認されたが、上野俊一博士の私信によると、この洞窟も現在では入洞できない状態になっているとのことである。そのため本種は、環境庁が 2000 年に公表したレッドリスト（環境庁、2000）および徳島県版レッドデータブック（徳島県、2001）において絶滅危惧 I 類に指定されており、種の存続が危惧されていた。

筆者らは、基準産地である龍ノ窟付近の地下浅層より本種を採集・確認したので、地下浅層からの初記録として報告しておく。

13♂ 7♀♀, 28-III-2004, 徳島県阿南市加茂町黒河（標高約 100m）、北山健司・森正人採集

採集場所は太龍寺山北東斜面を流れる加茂谷川の源流部で、龍ノ窟のあった場所の北北西約 400 m、標高差にして約 100 m 下方にあたる。大規模な崩壊地の堆積中より得られたが、この堆積は場所によって 100 cm 程度の深さがあった。ただし、多くの個体は比較的浅い部分（地表より 5 ~ 30 cm 程度）にみられた。

本稿をまとめるにあたり、国立科学博物館名誉研究員の上野俊一博士、並びに関西チビゴミ研究グループの芦田久博士に同定、文献等で多大なご助力をいただいた。末筆ながら、厚く御礼申し上げます。

<文献>

- 環境庁 1991. 日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—無脊椎動物編: 48.
環境庁 2000. 改訂レッドリスト. URL: http://www.biodic.go.jp/rdb/redlist/rdb_do_05.html
徳島県 2001. 徳島県の絶滅のおそれのある野生生物: 156.
UÉNO, S.-I. 1955. Mem. Coll. Sci. Univ. Kyoto (B) 22: 35-50.



「カクホソカタムシ亜科の属への検索表」の訂正 (再)

編集部

佐々治寛之 2004. 日本のカクホソカタムシ科序説—属への検索 (本誌 110: 1-4) に掲載した「日本産カクホソカタムシ亜科 *Ceryloninae* の属の検索表」(同3ページ) について, 本誌 111号において訂正を掲載したが, さらに誤植・脱落が見つかったので, 訂正した検索表を以下に改めて掲載する. 会員のみなさまに再度のお詫びを申し上げる.

日本産カクホソカタムシ亜科 *Ceryloninae* の属の検索表

1. 触角球桿は2節からなり, 先端節に2-4個の感覚付属物を有する. 口器は吸取型で, 下唇は前方に針状に突出する. 前胸背板の側縁は凸凹で, 刺毛を有する. 鞘翅は粗雑に点刻される. 前胸腹板は中央部が前方に膨隆する. 背面の疎生毛は先方に太まり切断状. *Cautomus* 属
日本に1種分布し, ムネビロカクホソカタムシ *C. hystriculus* SHARP, 1885は1.8-2.5 mm (図1B).
- 触角球桿は1節または2節からなり, 先端部に感覚付属物はない. 口器は吸取式でないか, 吸取式であっても, 針状に突出することはない. 2
2. 前胸腹板の前側方に深い触角窩がある. 前胸腹板の中央部は膨隆する. 3
- 前胸腹板に顕著な触角窩はなく, 中央部はほぼ平坦. 4
3. 前胸背板に2対の深い凹みがあり, 前胸腹板の深い触角窩は膜だけで隔てられる. 後胸腹板と腹部第1節腹板に弧状の腿節線はない. 前胸背板と鞘翅は荒く点刻され, 先端が切断状の刺毛を疎生する. *Thyroderus* 属
日本に1種分布し, アナムネカクホソカタムシ *T. porcatus* SHARP, 1885は1.4-1.7 mm.
- 前胸背板と鞘翅は平滑で, 微細に点刻される. 後胸腹板と腹部第1節に弧状の腿節線がある. *Mychocerus* 属
日本に1種分布し, ナガマルホソカタムシ *M. orientalis* (SASAJI, 1993)は1.7-1.9 mm, 本州 (図3).
4. 腹部第1腹板に腿節線がある. 5
- 腹部第1腹板に腿節線はない. 6
5. 鞘翅の第5条溝は肩部近くで深く印刻される. 大形. 脛節はふつう. *Afrorylon* 属
日本に1種分布し, ツシマカクホソカタムシ *A. shibatai* (SASAJI, 1983)は3.7 mm (図2B).
- 鞘翅の第5条溝は肩部近くで特に深くならず, 第4・6条溝とほぼ同様. 小形. 脛節は各脚とも先方に向って顕著に太まる. *Philothermopsis* 属
日本に1種分布し, アシプトカクホソカタムシ *P. crassipes* (SHARP, 1885)は1.5-2.0 mm.
6. 前胸腹板突起は先方に拡がり, 前胸基節窩は外方に閉じる. 前脚脛節は多少とも先方に拡がり, 外先角は明らかに歯状に角張る. 7
- 前胸腹板突起は平行か, 弱く拡がり, 前胸基節窩は外側に開く. 前脚脛節の外先角は丸まる. 8
7. 体表はほとんど平滑で, 扁平. 爪間板がある. 体は通常細長い. *Cerylon* 属
カクホソカタムシ *C. sharpi* NAKANE, 1963は1.5-2.0 mm, 本州・四国・九州に分布する.
- 体表はまばらに, 明らかに被毛. 爪間板はない. 体はふつう広卵形. *Paracerylon* 属
日本にはヨコムネカクホソカタムシ *P. curticolis* (SHARP, 1885) (九州 [1.5 mm]) とケナガカクホソカタムシ *P. takara* NAKANE, 1963 (トカラ列島 [2.5 mm]) が分布する.
8. 前胸背板側縁は鋸歯状で, 明瞭な縁取りはない. 前胸背板の表面は浅く, 粗く, つながった点刻に覆われ, その点刻の中央に刺毛を有する. *Ectomicrus* 属

京都府南部のタカハシナガゴミムシ

Occurrence of *Pterostichus bisetosus* in the southern part of Kyoto Prefecture

By Masato MORI

森 正人

〒651-1432 西宮市すみれ台2丁目2-5

タカハシナガゴミムシ *Pterostichus (Paralianoe) bisetosus* (STRANEO, 1938) は近畿地方だけに分布する比較的小型のナガゴミムシで、分布域は紀伊山地として認識されていた（例えば、田中和夫；1985）。田中昭太郎（2000）は本種の分布の中心は紀伊半島中央部の山地帯であるとし、北は奈良市東方の笠置山地、北東では室生赤目の周辺山地（布引山地）に及ぶことを記述しており、更に木津川を越えて京都府南部や、あるいは鈴鹿山脈に達するかどうかを課題としてあげている。このうち鈴鹿山脈での生息確認については、すでに森（2003）が滋賀県土山町武平峠からの記録を報告した。筆者はその後の調査により、京都府南部の数カ所で本種の生息を確認したので、新たな分布記録として報告しておきたい。今回、報告するのは以下の3箇所で京都府における初記録となる。

1. 京都市伏見区醍醐山 alt. 400 m 1 ♀ 4-IX-2004
2. 宇治田原町高尾 alt. 200 m 2 ♂ 4 ♀ 14-VIII-2004
3. 和束町殻池峠 alt. 450 m 2 ♂ 1 ♀ 21-VIII-2004 いずれも筆者採集

京都市醍醐山と和束町殻池峠では小さな沢の源流付近の土礫堆積中から、宇治田原町高尾では比較的大きな谷の斜面堆積から掘り出された。いずれの場所も伏流水が流れる近くの湿潤な層から、同時に見られた多くのタナカナガゴミムシ *Pterostichus latistylis* に混じって得られた。

これら京都府南部の個体は紀伊半島中央部産と比べて、♂交尾期右側片がやや長く、また湾曲の程度が強い傾向が認められた（図1参照）。また、本種の前胸背側縁前方の側縁毛の数については、

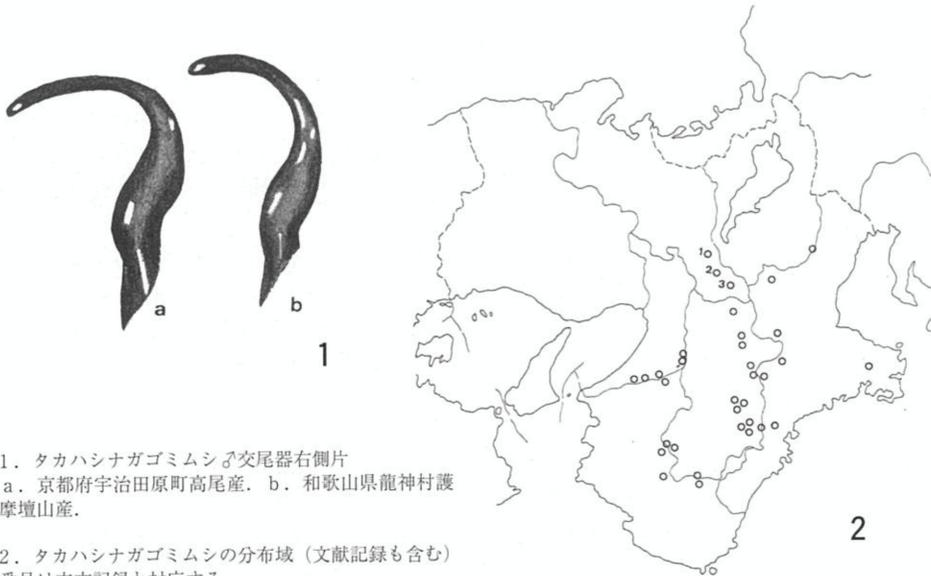


図1. タカハシナガゴミムシ♂交尾器右側片
a. 京都府宇治田原町高尾産。b. 和歌山県龍神村護摩壇山産。

図2. タカハシナガゴミムシの分布域（文献記録も含む）
番号は本文記録と対応する。

紀伊半島中央部の個体では左右各2~3本であるのに対し、京都府南部産の多くは左右各1本であった。既に報告した鈴鹿山脈産のほとんどの個体についても同様の特徴が認められたことから、本種の分布域の端部における特徴のひとつとして認めてもよさそうである。

これにより、現時点での本種の分布域は、紀伊半島全域の山地に加えて、半島基部東側では鈴鹿山地中部、半島基部の西側では金剛山地、基部中央では木津川および瀬田川を越えて京都市南部の醍醐山塊あたりまでの範囲となる(図2参照)。今後は、鈴鹿山地北部から伊吹山、あるいは淀川水系を越えた北摂山地が分布調査の課題となるが、後者については、調査が比較的多く行われている地域であることから、分布の可能性は否定的である。

<参考文献>

ISHIDA, H. 1968. Two new species of the genus *Pterostichus* BONELLI from western Japan (Coleoptera:Harpalidae). Ent. Rev. Japan (20): 37-40.

森 正人 2003. 鈴鹿山地からはじめて記録されるナガゴミムシ類. ねじればね (106): 11-12.

森 正人 2001. 近畿地方のナガゴミムシ類. 昆虫と自然 36(1): 12-16.

田中 昭太郎 2000. 近畿地方南部のタカハシナガゴミムシ. KINOKUNI (57): 1-6.

田中 和夫 1985. オサムシ科 (ナガゴミムシ亜科). 原色日本甲虫図鑑 II (上野俊一・黒沢良彦・佐藤正孝 編著): 113-121. 保育社.

こうひいぶれいく (話のたね)

採集道具あれこれ (2)

100円パイプで作るナイトースクリーンの支柱

The low-priced pole stand for the light trap

By Koichi NAKAYAMA

中山 紘一

〒780-0911 高知市新屋敷 2-9-20

1. はじめに

野山で昆虫を採集するのはむろん大好きだが、そのための道具を工夫することも私にとっては大きな楽しみの一つである。暇さえあればホームセンターや100円ショップ、釣具屋などになにか使えるものはないかと出かけていく。我が家の物置には試作したもの、失敗したものの残骸などが山と放り込んである。

中でもナイトースクリーンの支柱は、いろいろなものを考えて試作した。カメラの三脚のエレベーター部を逆さまにしてパイプを延長したもの、ランタンスタンドを改造したもの、釣りのサーフ三脚を改造したもの、遠征用コンパクト支柱、半円型白布など、あげればきりが無い。現在使っているものはアルミパイプ製の布団干し型の支柱である。これは数年前に作ったものだが、ベグを使わずに自立すること、風にある程度耐えられること、コンパクトに収納できることなど、我ながらよくできている。

支柱のX部には3段式の塗料刷毛の柄を用いて、横のバーには19mmと16mmのアルミパイプを3段式に組み合わせている。欠点は構造が少し複雑なこと、材料代がかなりかかることである。

100円ショップで手に入るアルミパイプは、長さが90cm余で、16, 14, 12mmの外径のものがあり、16mmに14mm, 14mmに12mmのものがほとんどガタつくことなく重ねられる。このパイプを用いて布団干し型支柱を作ってみることにした。

せっかく、安い部品で使い勝手のよい、少し凝ったものを作ろうとするのだから、次の点にこだわった。

(1) 誰にでも手に入る部品を使うこと。(2) 軽量・コンパクトなものにすること。(3) 全幅は180cm前後、仕舞寸法は車のトランクに横に入るように120cm以下とすること。(4) 製作するために特殊な工具を使ったり、鉄工所に細工を依頼したりしないで全て自分で作ること。

白布を張るのに一番簡単でけっこう使いやすいのは2、本の長いパイプをX型に組み合わせたものを2組作ってロープを張る方式である。おそらくスクリーン式のライトトラップでは一番使われている支柱の方式であろう。この方式はベグが2本ですみ。ベグが打てない場所でも2点を支えるだけなので、車と発電機の間をロープを張るなど工夫して、舗装路上でも張ることができる。タープポールなどの高価なものを使わなくても、市販のパイプを組み合わせただけで作ることができ、構造も簡単に軽く、風にも強い。畳めば竿袋にも収納できる。白布の中央が下がるが、X型になった上部に長竿を渡すか、中央につっかい棒をしてたるみを取ることができるなどの利点がある。しかし、光源が白布にくっついてしまうこと、庇部分が無いなどの欠点がある。

ここで述べるX型布団干し型はこの方式の応用型で、横方向によじれ止めの2本のバーを渡し、天部もパイプとして自立させ、庇部を作ったものである。

まずは、ホームセンターなどでX型布団干しの構造を頭の中に入れておく。アルミ製の布団干しならそのまま購入して使うこともできる。安く買うと6,000円ぐらいで手に入る。高さが少し不足するので、50cmほど脚の長さを延長する。全幅が調節可能で、強度も十分すぎる程あるが分解してもかなりかさばるし、アルミとはいえパイプが太いので重量もかなりある。ここでは100円のアルミパイプを使ってこの方式のスクリーン支柱を作った。パイプが弱いので、中央部に1本つっかい棒を入れて補強することを前提として制作した。各部の名称は図1に示した。

2. 制作

(1) パイプのつなぎかた

ワンタッチ脱着式のネットなどに使われているロックボタン（正式名称は知らない）方式を使うと、スーッと内側パイプを引っ張り出してパチンと固定。収納時はボタンを押し込んでスーッと収納。スマートで見かけもよい。ところが、ホームセンターを探してもこの部品が見つからない。手に入らなければ作ってしまおう。

ホームセンターで平型5mmの銅リベットを購入する。長さは7mmが最適だが、無い場合は10mmのものを切断する。平型が無ければ丸でも丸い部分を削り落として使うことができる（アルミリベットのほうが安価で細工もしやすいが、仕上がりと滑りは銅の方がよい）。リベットの鏝に1.2～

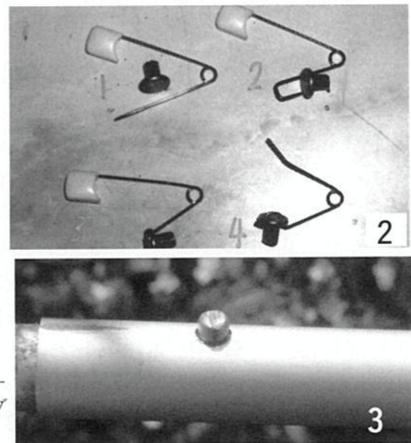
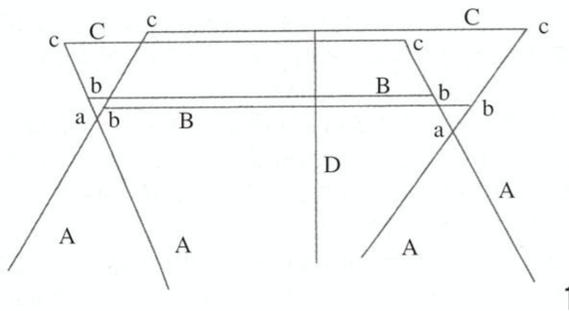


図1-3：図1. 各部名称. A：X支柱部 B：横バー C：天バー D：中央つっかい棒, a：交差金具 b：Tジョイント c：エンドブラケット. 図2. ロックボタンの作り方. 図3. ロックボタン完成.

1.5 mm 程度の穴をあける。長さが 10 mm の場合は 3 mm ほど切り取ってから上端の角を丸める。

バネとして安全ピンを用いる。リベットの鏝にあいた穴に尖ったほうを通して先端を折り曲げ、ラジオペンチなどで折り曲げて固定したのち、安全ピンの頭部分を取り除き、少し下向きに折り曲げておく (図 2)。

外側と内側のパイプの繋ぎたい部分を決めて 5.5 mm の穴をあける。内側のパイプは先端から 3 cm 程度。外側にも同じように穴をあける。

リベットと安全ピンで作ったロックボタンを内側のパイプに安全ピンのループ部分を手前にしてラジオペンチなどで押さえながら差し込む。外側のパイプを差し込んで穴の位置が合えばパチンと止まる。安全ピンの代わりに釣具屋やホームセンターで入手できるステンレスのピアノ線 1.0 ~ 1.5 mm 径のものを細工して使えば錆の心配がない。固定した状態で外側と内側のパイプにヤスリなどで合わせ、マークを付けておくとよい (図 3)。

このようにして 16 mm パイプと 14 mm パイプを繋いだものを 8 本作る (中央部のつかい棒もこのパイプで作るのであれば 9 本)。

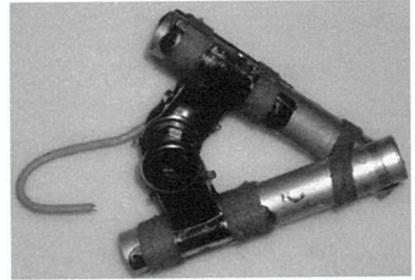


図 4. 交差金具.

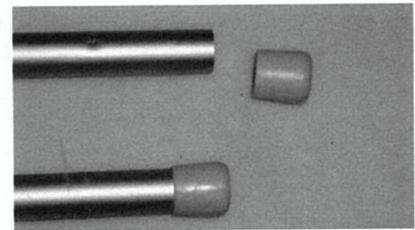


図 5. ゴム足.

(2) X支柱部分

作ったパイプを X 型にするには、交差させた部分に穴を開けてビス・ナットで固定する方法が一番簡単であるが、このときできるだけ細いビスを使わないとパイプの強度が落ちる (この部分を補強するには 12 mm のパイプを差し込んで 2 重にするとよい)。また、2 本のパイプを収納するときビスを抜かないと、きちんと収納できない (ナット側をチョウナットにするとよい)。このときは開脚幅を規制する紐を下部のパイプ間に取り付けなければならない。上からつぶされたように倒れると交差部分が簡単に破損する。下部に紐をつけるとパイプのたわみは少なくなるが、この紐が組み立て時に意外と邪魔になる。そこで、綿糸と目玉クリップを使って図 4 のような固定式の交差金具を作る (開脚角度は 60° 前後が使いやすい)。10 cm 前後の 16 mm パイプを 2 本並べ、綿糸で強く縛ってから角度を開いて目玉クリップ (中) 2 個で止める。目玉クリップは丸い部分を交差させてビス・ナットで固定する。角度が決まったら、目玉クリップも綿糸で縛って止める。綿糸の部分に接着剤かラッカーを塗って固める。交差金具は同じものを 2 個作ること。パイプの交差が違うものを作ってしまうと、横や天のバーの長さを前後で変えなければならなくなる。この方式だと開脚幅があらかじめ固定されているので下部に開脚幅を規制する紐を省略できる。白布を張ると足の部分がかかなりたわむが、中央部分につかき棒をするのでそれほど心配はない。

支柱の上端から前側のパイプでは 60 cm、後ろ側のパイプは 50 cm の位置にロックボタン用の穴を開ける。前側に来る支柱パイプと後ろ側の支柱パイプの長さを 10 cm 変えることによって後ろ側に対して前側の脚が 10 cm 長くなるようになる (前の方が蛍光灯などの重さがかかるのでこうしておく。また、白布を張ったとき底部分が少し斜めになるので採集しやすい)。

交差金具を固定するためのロックボタンをセットする位置が 14 mm パイプの中央近くになるが、ロックボタンの安全ピンのループ部分を向こう側にして方向を定めてパイプの中に入れ、12 mm パイプを道具にして静かに押し込んでいくと簡単にセットできる。支柱の交点から長い方 (上端から 50 cm に穴を開けたもの) の 14 mm パイプには下になる側にロックボタンの作動に支障がないように注意しながら 30 cm ほどに切った 12 mm パイプを差し込んで 2 重にして補強する。中のパイプの位置が決まったら一度取り出してから軽く接着剤を塗って差し込んで固定するか、位置の決まっ

たところでセンターポンチで1カ所だけ軽く締めて固定する。この補強パイプを固定しておかないと中でパイプが動いてロックボタンの作動に支障を来すが、ロックボタンの交換などのとき分解可能なように動かない程度に軽く止めておくこと。収納時には16 mmパイプの中に14 mmパイプが収納されるが、14 mmパイプが全部入ってしまわないように外側の16 mmパイプの下端から5 cmほど上にセンターポンチで3カ所ほどへこみをつけて14 mmパイプが止まるようにする。16 mmパイプの地面に設置する先端にはゴム脚キャップを着けておく(図5)。

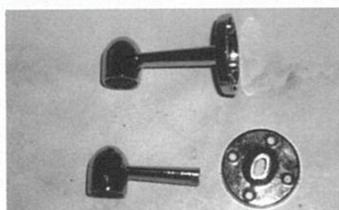
(3) 横バーと天バーを作る

横のバーはT字型のジョイントを使って2本のバーを渡すようにすればよい。T字型のジョイントは16 mmパイプが通ればよいのだから水道用の塩ビジョイントを使った。16 mmパイプに綿糸を硬く巻いて太さを調節して塩ビジョイントの中に差し込み、位置決めをしてから接着剤を流し込む。横方向には15 cmに切った16 mmパイプを同様に差し込む(全幅を180 cmにするため15 cmとした、幅が狭くてかまわないのなら5 cmでもよい)。これを2組作る(図6)。あと2組は長いままの16 mmパイプを繋ぐ。短い16 mmパイプの側は14 mmパイプの一端を重ねてセンターポンチで数カ所か締めて止める。

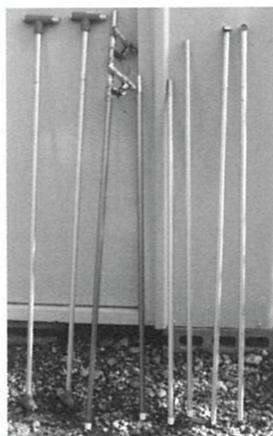
天部の2本の横バーは14 mm用のエンドブラケット金具を購入して取り付け部を切り取って綿糸を巻き付け、両端の16 mmパイプに差し込んで接着剤で止める(図7)。前側のバーには荷重がかかるので道具として使った12 mmパイプを14 mmパイプに差し込んで2重にする。エンドブラケット金具には取り付け用の小ねじが付属しているのでパイプの上から2.5 mmの穴をあけてねじ込むと完璧である(図8)。完成したパーツは8本のパイプと交差金具とになる(図9)。



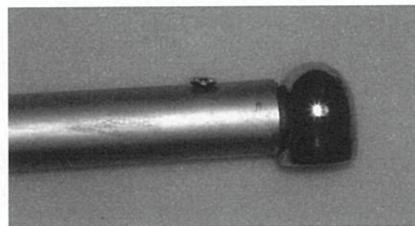
6



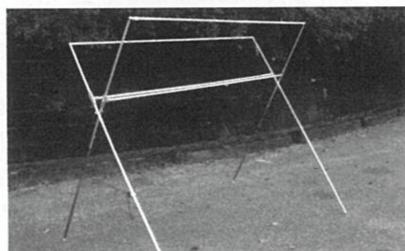
7



9



8



10

図6. 交差金具とTジョイント。図7. エンドブラケット。図8. 天バー末端。
図9. 完成したパーツ。図10. 完成。白布を張ってから中央につっかい棒をする。

3. 組み立て

完成後、組み立てるときは全てのパイプをのばしてロックしておいてから組立てるとよい。最初にX支柱部分を組み立てて、上から2本の横バーのTジョイント部を差し込んで自立させてから天部のバーを取り付ける(図10)。撤収は逆に行う。前側の天バーの中心部に目玉クリップなどを取り付けた竿の柄か別に作ったパイプでつかい棒をして全体にかかる荷重を軽減する。

はじめは少々複雑で、戸惑うかもしれないが、慣れれば10分もあれば組み立てや撤収ができる。制作時に要所にカラーパイプを使用して組み立て時に部品の見分けがつきやすいように工夫するのもいいだろう。

4. 白布セットの仕方

風のことを考えて白布はメッシュ地のものを使用するとよい。また、白布の上端を袋状にして天のバーに通すようにするよりは、目玉クリップで数カ所止めるほうが使いやすい。下端は袋状にして竿を通すようにしておく。袋状の部分より下を40cmほど残して地面に敷くようにしておけば下に落ちた虫も発見しやすい。前から後ろの天バーをまたがせてから横バーをくぐらせると横から見て「て」の字を変形したような形になる。これで庇が前後にでき、後ろ側にも光源を取り付けることができる。下端は袋状部分に通した竿の出た部分に水銀灯の安定器や水を入れたペットボトル、砂を入れた袋などを置いて重しにする。上端の目玉クリップで調節して白布をピンと張り直す(下端に通すには竿を利用するのが簡単だが専用のものにするのであれば1~2mに調整できるカーテンレールが角があって重りで押さえやすいし、自重もあるので使いやすい)。

5. 蛍光灯の工夫

このパイプでは蛍光灯を器具ごと天バーにぶら下げると、かなりの重量がバーにかかって、たわんでしまう。蛍光灯はチョークと管球部を分離した方が光も四方に出てバーにかかる重量も軽減される。分離したチョークは2~3個をまとめてブラケースなどに入れて支柱のX部分にぶら下げるとすると重りとなり、操作性もよい。私は管球とチョークの間の配線は自動車の配線用のターミナルを使っている。20w用、30w用とターミナルの形状を変えておけば誤配線もない(図11)。さらに管球に点灯管とコードを取り付けたものを透明の釣り竿ケース(釣具屋へ行けば無料で分けてくれる)の中へ納めるようにしている。配線は非常に簡単である(図12, 13)。このまま点灯でき、支柱が風で吹き倒されても管球が割れるのを防ぐことができるし、運搬中に割れる心配も少ない。最近の釣り竿ケースは表面に大きなラベルを貼ったものが多いが、ヘアドライヤーで気長に暖めてゆっくり剥がす。糊がべったりと残るのでイソプロピルアルコールで拭き取る(酢酸エチルやアセトンだとケース表面が溶けてしまう。エチルアルコールではほとんど拭き取れない)。

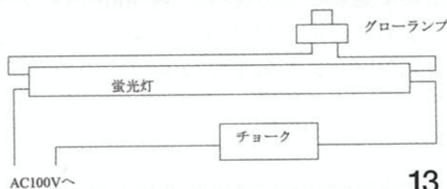
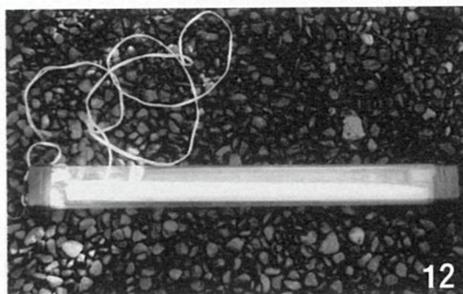
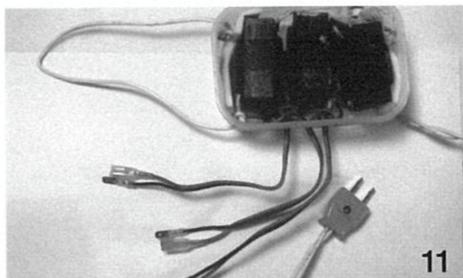


図11. 蛍光灯のチョーク。
図12. 釣り竿ケースに蛍光灯を入れる。
図13. チョーク式の配線図。

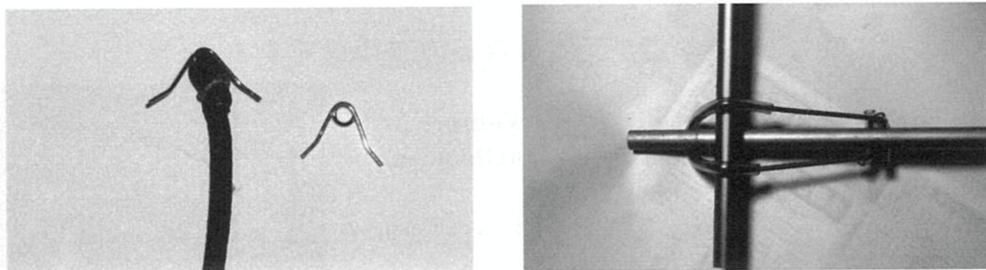


図14-15：14. ショックコード、15. 固定金具。

6. 終わりに

100 円パイプを組み合わせてナイタースクリーンの支柱を作ってみた。材料費は少々失敗して無駄が出て 4,000 円もあればおつりが来る。パイプカッターやヤスリなどの道具も 100 円ショップにはある。ロックボタンのちょっと細かい作業があるが、作ってしまえば見栄えもよく、使い勝手もよい。全幅180cm のもので仕舞い寸法は 110cm 前後であるから、軽自動車のトランクに横に入るし、竿ケースにも入る。仕上がり重量は全てのパーツを合計して 2 kg。まとめて縛れば片手で持つことができる太さである。要所を 2 重パイプとすれば、かなり強度のあるものも作ることができる。X 支柱部分をすべて 2 重にして、天バーも強度のあるものにすれば中央部のつかい棒を使わないですむが、その場合は、パイプを重ねて収納できないので、ロックボタン式でなく、印籠継ぎにしてショックコードを入れておくと使いやすい。ショックコードはゴムひもと安全ピンを切ったもので簡単に作ることができる (図14)。

もちろん、ホームセンターで売っている 16 mm と 19 mm のパイプを主要部分か、全体に使用すれば頑丈で大型なものも作ることができるが、重量と収納時のかさが増加すると材料費が約 4 倍になる。

7. おまけ

天部の横バーやつかい棒は、昼間に網の柄として使っている玉網の柄などを流用することもできる。このとき使うのに非常に便利な金具がある (図15)。この金具は園芸用のビニールハウスのパイプを十文字に固定するときを使うものだが、これで固定するとびたりと止まる。バネが強力なので無理にセットすると竿が潰れてしまうことがある。竿の太さに合わせて金具の曲がり具合をハンマーで叩いて調節しておくこと。ビニールパイプを被せて竿を保護するようにしておくともよい。1 個 100 円前後であるが、竿の太さに合わせて太めのピアノ線や針金ハンガーなどで自作してもよい。

材 料

【100 円ショップで購入したもの】

16 mmパイプ×10, 14 mmパイプ×9, 12 mmパイプ×2, 安全ピン (10本入り)×2, エンドブラケット (14 mm 2 個入り)×2, 接着剤, 綿糸, 目玉クリップ (4 個入り)×1.

【ホームセンターで購入したもの】

ゴム脚キャップ (16 mm)×4 個, 水道用塩ビ T 型ジョイント (13 mm)×4 個, 銅リベット (5×10 mm 4 個入り)×3, 5 mm ボルト・ナット×2

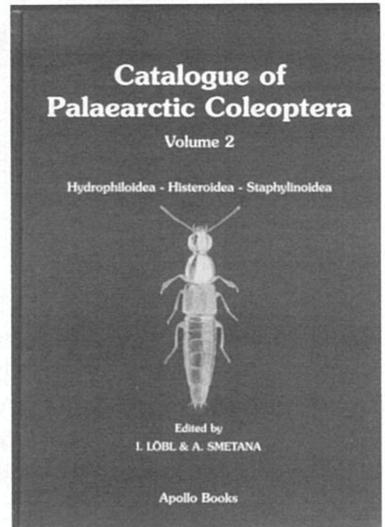
【使用工具】

電動ドリル (1.5, 2.5 5.5 mm ドリル刃), バイス, ラジオペンチ, ニッパー, パイプカッター, 金属用のこぎり, センターポンチ, ハンマー, はさみ, ドライバー, 鉄工用やすりなど

<書評 Book Review>

分類学者が元気になるカタログです！

**Catalogue of Palearctic Coleoptera Volume 2 –
Hydrophiloidea, Histeroidea and Staphyliniidea –**
Edited by I. LÖBL and A. SMETANA. 942pp.
Published by Apollo Books: Kirkeby Sand 19 DK-5771 Stenstrup
Denmark. (ISBN 87-88757-74-9)



今日、地球上の生物の多様性に関する研究が、生物学やその関連分野において精力的に展開されている。様々な生物学の分野のなかで、もっとも中心に位置する学問の一つである系統学 (phylogeneticus) は、生命の関係という新しい側面を見事に証拠付けたように思われる。その証拠付けは“生命の樹 (tree-of-life) プロジェクト”などを中心とする様々な研究プロジェクトを通し、分子データに力点をおいてなされてきた。科学的活動のこの流れに沿って、ミクロ生物学者の数人は、伝統的な分類学に取って代わって、DNA分類が始まることを予期している。しかし、長い伝統をもつ形態に基づく分類学は、「種」、「分類群」、「カテゴリー」などといった (分類学という閉じた理論体系のなかでは) 一見形式的なものであるか

のように見える、完成された着想概念を利用して、今なお瑞々しい底力を保っている。そして、分類学はその研究結果であるところのカタログ、モノグラフ、分類学的再検討、検索表、ハンドブック、図鑑などをとおして、積極的にそして独自のやり方で私たちみんなの地球の自然理解に貢献している。このカタログの編集者両名は緒言の冒頭で力強く次のように述べている：「分類学的情報の中心に位置するものとして、生命の多様性を知る案内書となる分類カタログがある。体系学 (systematics) や分類学 (taxonomy) はファウナにおける多様性や分類の評価 (assessment) を可能にし、そして、これまでなされてきた分類学的な研究史の情報を提供する学問分野であるが、分類カタログはこれらの分野における研究成果を適切に纏め上げる。」まったくそのとおりである。

21世紀の初めに、この素晴らしいカタログが出版されたことに対して心から祝辞を述べたいと思う。このカタログは日本の甲虫研究者の間でも知名度が高い I. LÖBL 博士と A. SMETANA 博士によって編集されている。これは全8巻の出版が予定されている Catalogues of Palearctic Coleoptera (旧北区甲虫のカタログ) シリーズの第2巻であり、ガムシ上科 Hydrophiloidea, エンムムシ上科 Histeroidea, およびハネカクシ上科 Staphyliniidea の3上科を含むハネカクシ系列 Staphyliniformiaを扱っている。執筆に携わった甲虫研究者は12名 (C. BESUCHET, A. DAVIES, M. HANSEN, M. A. JACK, C. JOHNSON, I. LÖBL, S. MAZUR, M. PERREAU, J. RUZICKA, J. SCHNEIDER, A. SMETANA, S. VIT) で、いずれも現代を代表する一流の甲虫研究者である。第2巻は942ページからなる。カタログ部分は約660ページを占め、そのうち、ハネカクシ科のカタログは約460ページである。ハネカクシ科についてみると、LÖBL 博士と C. BESUCHET 博士がアリヅカムシ亜科 Pselaphinae とデオキノコムシ亜科 Scaphidiinae を担当しているが、400ページ弱に及ぶ残りすべてのハネカクシ科の亜科は SMETANA 博士によるリストで、SMETANA 博士の頑張りが目立つ。

このカタログの高次分類 (亜目~亜科) の配列の基礎として、LAWRENCE and NEWTON (1995): Families and subfamilies of Coleoptera が採用されている。他方、亜科より下のすべての分類群はABC順に配列されている。種階級群に関しては、種小名と亜種小名が、命名者、当該記載論文の出版年および記載ページとともに記されている。メダカハネカクシ属 (*Stenus*) の種の記述例を一つあげてみると、*alienus* Sharp, 1874a: 81 というふうになる。記載論文が掲載された雑誌名は略記した形でも表記されていないが、命名者と出版年をたよりに引用文献を当たれば、それをすぐ知ることができる。

このカタログの特徴としては、編集者も触れていることであるが、以下の3点をあげることができると思う。第1点は、旧北区に分布していて、かつ2002年12月31日以前に記載された現生分類群の有効名 (valid names) と無効名 (invalid names) が完璧にリスト化されているということである。その第2点として、当該分類群が記載された主要1次文献が完璧に網羅されている、ということである。240ページ強におよぶこの文献リストは、甲虫研究に携わるものにとっては本当にありがたい。このカタログでは、実質的に約35,300の分類群名と7,827におよぶ1次文献が取り上げられているのである。

このカタログの第3の特徴として、種と亜種に関する分布情報がかなりの精度で盛り込まれている、ということもあげることができる。旧北区は、カタログのなかでは、ヨーロッパ (Eと略記)、北アフリカ (Nと略記) およびアジア (Aと略記) と3つの区域に分けられている。それぞれの区域は分かりやすくさらに複数のに区分けされている。ユーラシア大陸のなかでは、ロシアと中国については、地図上で小区分を知ることができるし、また、それらの地域を含む旧北区の全域の小区分は表1 (p.12-13) に示してある。それぞれの小区分はアルファベットの太文字2つあるいは3つによって表記されている。たとえば、日本はJA、台湾はTAIといった具合にである。

分類群の分布の表記で面白いと思ったことには、移入種の分布表示がある。移入 (introduction) は "i" で示され、移入による分布は、たとえば、Ei:GBというふうに記載されている。この表記は「ヨーロッパEのイギリスGBに分布しているが、その分布は移入(i)に基づく」ということを意味する。また、広汎域分布種 (cosmopolitan species) はCOSで表記されている。分布の表記例を一つあげておきたい。メダカハネカクシ属の一種 *Stenus vitaleri* の分布として、E: CR FR IT PT SP N: AG MO TU と表記してある。この種はヨーロッパEと北アフリカNに分布するが、ヨーロッパでは、クロアチアCR、フランスFR、イタリアIT、ポルトガルPT、スペインSPに、北アフリカでは、アルジェリアAG、モロッコMO、チュニジアTUに分布している、ということである。このレベルの詳しい分布表示がそれぞれの分類群に対してなされているので、リストの作成では実に時間がかかったであろうと思う。そのおかげで、非常に多くの種・亜種の分布範囲をかなり正確に私たちは知ることができるのであるが、この点だけを取り上げても、このカタログを良質のものに仕上げようとする編集者および執筆陣の情熱を、私はひしひしと感じとれて嬉しかった。このカタログが当該甲虫群の分布学 (chorology) や生物地理学 (biogeography) の研究に必要な欠くべからざるもの (sine qua non) になる、と感じるのはきっと私一人ではないだろう。

36ページから始まるカタログに先だち、ハネカクシ系列3上科の命名規約に関する変更が非常に多く盛り込まれている。シノニム、新置換名 (new replacement names)、新結合 (new combinations)、階級の変更、シノニムになった属などの復活 (resurrections)、他が14ページにわたっているのである。たとえば、日本産コガシラハネカクシ属の *Philonthus daimio* SHARP, 1889 は、*P. caeruleipennis caeruleipennis* (MANNERHEIM, 1830) のシノニムとなっている。カタログを出版するに当たり、このような命名規約上の変更は別に学術雑誌上で済ませる場合とカタログのなかを含めてしまう場合がある。このカタログでは後者の場合であり、したがって、命名規約上の変更に関する情報だけを必要とする分類学者は、どうしてもこのカタログを見なければならぬということになる。いずれにせよ、このカタログを手にしたら、このカタログが私たちの甲虫研究にいかに便利で有用であるかを知ることになるだろう。というのも、旧北区に分布するハネカクシ系列の甲虫の分類群名が網羅されているばかりでなく、種と亜種の分布情報、関連1次文献、および、科、族、属、亜属レベルの索引が完備されていて、カタログは必要情報で満たされているからである。このカタログの出版がよい刺激となって、旧北区の甲虫の研究が国内外で活性化することを心から期待したい。この書評を終えるにあたって、一友人同僚として一甲虫分類学者として、画期的なカタログの編集の労をとられた両博士に、心から感謝したいと思う。

(直海俊一郎：千葉県立中央博物館)

[虫屋の広場]

地域別総合甲虫目録

◎ 区市町村単位目録・小地域目録

1. 広島県庄原市

- ・前藤文三 (1997) 山里の虫の記録—庄原市本村町 (大炭谷・菅田) の昆虫相とその変遷. 比婆科学 (181): 1-86. コウチュウ目: 23-44. [49科 409種]
- ・中村慎吾ら (4名) (2003) 広島県庄原市川西町の昆虫類. 比和科学博物館研究報告 (42): 93-180. コウチュウ目: 115-140. [40科 321種]
- ・前藤文三 (2003) 里山の昆虫誌—本村町 (大炭・菅谷) の昆虫. 比婆科学 (209): 1-235. 2pls., 255科, 2,632種. コウチュウ目: 36-108. [69科 838種]

2. 福井県敦賀市

- ・佐々治寛之ら (7名) (2003) 中池見湿地並びにその周辺地域の昆虫相: pp.225-308. 野原精一・河野昭一(編), 「福井県敦賀市中池見湿地総合学術調査報告」国立環境研究所研究報告 (176): 387pp. 17目, 1,738種. コウチュウ目: [615種]

3. 福井県大野市

- ・羽田義任・井上重紀・下野谷豊一ら (7名) (2002) 「平家平自然環境調査報告書」134pp. 昆虫綱: 47-102, 1,632種. コウチュウ目: [56科 590種]

4. 石川県白峰村

- ・保科英人ら (4名) (2003) 2002年石川県白山系で採集された甲虫類, 付 オオキノコムシ科昆虫の1新種の記載. 「日本海地域の自然と環境」(福井大学) (10): 15-39. [53科 288種]

5. 福岡県飯塚市

- ・山脇好之 (2003) 笠置山 (飯塚市) の鞘翅目 (21). Kasagi (13): 187-204. [509種 (総合計 1,594種)]

6. 三重県楠町

- ・市橋 甫ら (6名) (2003) 楠町吉崎海岸の昆虫. ひらくら 47(5): 69-82. 甲虫目: 73-81. [33科 138種]

7. 徳島県三野町

- ・吉田正隆ら (4名) (2004) 三好郡三野町の甲虫類. 徳島昆虫 (14): 59-82. [69科 657種]

8. 三重県菰野町

- ・市橋 甫・富田靖男 (2004) 御在所岳の「マレーズ・トラップ」により採集された昆虫類. 三重県環境保全事業団研究報告 (10): 101-116. コウチュウ目: [30科 108種]

9. 三重県上野市

- ・上野市 (2004) 「上野市史自然編」 pp. 1,036. 第5章 昆虫: 661-1030.
- ・市橋 甫ら (6名) 第6節 コウチュウ目: 690-706. 付編2 昆虫目録 コウチュウ目: 909-978. [94科 1,321種]

10. 山口県徳地町

- ・田中 馨ら (5名) (2004) 徳地町・長者ヶ原の甲虫類. 山口のむし (3): 39-50. [47科 346種]

11. 山口県宇部市

- ・田中 馨 (2004) 宇部市の高層マンションに飛来した昆虫. 山口のむし (3): 96-110. コウチュウ目: 99-105. [32科 184種]

12. 長崎県福江市(男女群島)

- ・足立一夫 (2004) 男女群島の甲虫相について. 甲虫ニュース (146): 13-15. (合計) [36科 182種]

13. 鹿児島県佐多町

- ・佐々木邦彦 (2002) 鹿児島県佐多町辺塚の甲虫類 (I-II). 北九州の昆蟲 49(2): 173-180. pl. 23. [21科 166種]; 同 49(2): 181-188, pl.24. [15科 179種] (合計 36科 345種).

14. 福岡県志摩村

- ・城戸克弥 (2001-2002) 福岡県立石山の甲虫類 [I-IV]. 北九州の昆蟲 48(2): 105-108, PII. 18-19 [カミキリムシ科, 28種]; 同 49(1): 23-30 [8科 152種]; 同 49(2): 161-166 [19科 104種]; 同 49(2): 167-172 [23科 111種] (合計 51科 395種).

15. 広島県甲山町
 - ・ 亀山 剛ら (3名) (2000) 広島県八田原ダムの昆虫類. 比婆科学 (197): 1-187. コウチュウ目: 44-95, 151-170. [60科 667種]
 - ・ 亀山 剛ら (3名) (2004) 広島県八田原ダムの昆虫類 2000 年の調査結果. 比婆科学博物館研究報告 (43): 133-292. コウチュウ目は165-197 pp.と245-269 pp. [50科 480種] (合計 64科 828種).
16. 広島県東広島市
 - ・ 中村慎吾ら (3名) (2004) 広島県東広島市高屋地区の昆虫類. 比婆科学博物館研究報告 (43): 293-336. コウチュウ目: 309-322. [33科 228種]
17. 埼玉県嵐山町
 - ・ 豊田浩二 (1998) 埼玉県嵐山町における甲虫相の研究. 寄せ蛾記 (89): 2583-2646. [78科 925種]
18. 山梨県南アルプス市
 - ・ 国土交通省富士川砂防事務所 (2004). 平成15年度 野呂川溪流環境モニタリング調査ヒアリング資料. コウチュウ目: 資料 2/13-19 (和名のみ). [56科 411種]
19. 岐阜県宮村
 - ・ 高井 泰 (2004). 宮村産無脊椎動物目録「宮村史自然編資料」(宮村, 210pp.): 51-203. 昆虫: 64-203. 甲虫目 (鞘翅目): 137-189. [84科 976種]

◎複数市町村を包含するやや広い地域の日録

1. 山梨県富士山
 - ・ 篠田授樹 (2003) 富士北麓地域の生物相—コウチュウ目. 「生物多様性調査—生態系多様性地域調査 (富士北麓地域) 報告書」. (山梨県環境科学研究所・富士北麓生態系調査会, 275pp.): 111-131pp. [69科 658種]. アリヅカムシ類は, 野村周平による別稿 (pp.159-162).

◎都道府県単位目録

[神奈川県]

神奈川昆虫談話会 (2004) 「神奈川県昆虫誌 I-IV」(A4判, pp. 1468). コウチュウ目: 平野幸彦; II: 335-835 [120科 4127種].

新刊の紹介

- ・ 河野和男 (2004) 「カブトムシと進化論——博物学の復権」(新思索社, 四六判, 342 pp. カラー24pp. 定価 2,625 円)

著者は熱帯農業分野でキャッサバの育種に多大な成果を挙げ, 各国からの栄誉を受けられた世界的に著名な農学者であるが, 多年コロンビア, タイ, インドネシア, フィリピンなどに滞在された間に収集された大型甲虫類のコレクションが膨大な量に及んでいる. これらを材料としての趣味の研究成果も内外の雑誌に発表された件数がまた生半可でないことを承知されている方も既に大勢おられるであろう. 今回, 氏の哲学が平易な日本語の単行本に凝縮されたことは甲虫愛好者にとってまことに喜ばしい慶事である. すなわち, 育種という遺伝の応用を職業とする学者が我々甲虫愛好家に最も理解しやすいカブトムシやクワガタムシを材料にして進化を語った類稀な進化論の解説書と云い得るからである. (水野弘造)

- ・ 野平照雄 (2004) 「わが昆虫人生—山のおじゃまむし」(岐阜新聞社, 331pp. 税別 1,619 円)

林業害虫の専門家であり, かつゾウムシ類の研究家でもある著者が「岐阜県の林業」誌上に 160 回に亘って寄稿された随筆を退職記念にまとめられた文集. 著者によれば寝転んで読んでほしい自薦の書の由. 甲虫以外の虫も多数登場するが, やはり甲虫屋の文だけに甲虫に関する記述が長年の経験と深い学識に裏打ちされて読み応えがある. (水野弘造)

会 告

「地域甲虫自然史」
"Regional Natural History of Coleoptera"

シリーズの刊行について

地域別総合甲虫目録の紹介欄に見るように、近年各地で地方の甲虫相が盛んに公表されている。これは甲虫類図鑑の充実から、同好者一般の同定能力が向上し、地域ファウナの解明意欲が浸透し、一方では環境劣化の危惧から官民あげてのレッドデータ調査がもたらした総合的な成果であろう。このような時流を考慮し、日本甲虫学会では、地域甲虫相を専門に取り扱う誌面を用意することを決定した。以下に若干のルールを定めて実行に移したいので、会員諸氏の活用を願うものである。

◎刊行の形態・費用

「地域甲虫自然史」(Regional Natural History of Coleoptera)としてシリーズ不定期刊行とする。会員数に著者の希望冊数を合わせた冊数だけ印刷刊行する。年会費とは別の会計で運営し、購入希望する会員から費用を徴収して刊行費用に当てる。抜刷は作成しないが、著者は製造原価に近い割引き費用で希望の冊数を確保できる。

◎投稿規程

本学会会員は投稿・出版できる。複数著者の場合は少なくとも1名が会員たること。日本語、英語のいずれかを使用できる。日本語を使用する場合は英語で、英語を使用する場合は日本語で、表題と摘要を添える。日本語を使用の場合、学名を斜体にする必要はない(斜体を使用しても勿論かまわない。英語使用の場合、学名は斜体の方が望ましい)。

使用する学名・和名は、権威ある専門家による目録、図鑑などに準拠することとし、改変された名称を使用する場合は、その理由を注記する。学名命名者については二名法の運用上必須では無いが、分類群によっては属の変更がしばしばなされるため、命名者の明示と括弧の有無(属名が原記載どおりか改変されているか)をも明示することが望ましい。命名者の表記について例えば、正式には Candèze とすべきを Candeze, CANDEZE, CANDEZE のように特殊な修飾符号は省略しても良いこととするが、大文字、小文字の使用は全体が統一されればいずれでもよい。和名は併記することが望ましい。和名のみによる目録は受けつけない。

公表された目録中に疑問の種を指摘された場合、著者は直ちに当該標本を専門家の同定に供し、もしも誤りが後で判明した場合は「ねじればね」誌上に訂正を報告する。このため、目録に挙げる種は文献からの引用以外は実在標本に依ること。目録としてはなるべく採集地、採集日、採集者・保管場所などの諸データを伴うことが望ましい。

写真、図は原則モノクロとし、著者がカラーを希望する場合は相応の費用負担をしなければならない。

原稿はパソコン、ワープロに著者自身が入力した校正済みの電子ファイル化したものと、打ち出し紙面とを編集部へ送付し、編集部の指示に従って適宜改稿すること。

大略「ねじればね」の投稿規程に準ずるものであれば問題はない。

「地域甲虫自然史」の頁編集に関しては編集部は原則として新たに手を加えることはせず、著者の編集紙面がそのまま印刷される。レイアウト・スタイル、文字のフォントなど号数間の不統一、差異

などは著者ならびに本会会員には予め了解されたものとする。

編集部は、内容が学会刊行物として常識的であれば拒否をしないが、内容が不適切と判断した場合、編集部の指示に従わない場合、時間的に無理な刊行要求、他とのバランスを欠く装丁の要求、その他学会に過大な負担を懸ける要求などには刊行を拒否することがある。

◎ その他の注意事項

本シリーズは甲虫各種の分布、発生期などのデータ公表を目指すものであるから、新種記載などオリジナルな分類学的処置をその中に含ませないこと。

引用文献は著者、年次、誌名、巻号、頁を明記する。逐次刊行物からの引用の場合はタイトル(表題)は省略して差し支えないが、図鑑、単行本の場合は、タイトルと出版元も明記する。

摘要の中に報告した科・種の総数を明記する。また対象とした地域、調査期間、特殊な手法による場合はその方法などを明示する。

既に一度公表されたことのある資料の丸写し、もしくはそれに近いものの再刊行は受け付けない。ただし公表資料が細切れとして散在するため、一括再編集したものは、引用文献にそれら既報文献類を明記しての刊行を可とする。

◎ 頁 数

仕上がり頁数が16頁以上となるように編集されること。これに満たないリストの場合は、同様に頁数の少ない別資料と合冊して編集されること。200頁を越える場合は、分割などの可能性を編集部と協議の上、解決を図ること(大冊の刊行は在庫管理などの諸問題を抱えるため、学会の負担を結果的に招くものである)。

◎ 著作権

本会の他の刊行物と同様に取扱われることを著者は了承したものとする。すなわち、著者といえども本シリーズの刊行後は、本会に無断で再版はできない。

2005年1月23日
日本甲虫学会運営委員会

【意見】

同好会の活動が活発な地域にお住まいの方はその会誌を通じてファウナの公開が容易ですが、適当な発表誌が身近にない方はぜひともこのシリーズを活用してください。かく言う編集委員の一人(水野弘造)も居住地には同好会が無く、これに活路を求める所存です。また採集会の成果を纏めた「和佐又山甲虫目録」がすでに1,200種に到達していますから、これをシリーズの見本として刊行すべく準備中です。

会務報告

1. 会計

2004年(平成16年)の収支状況を報告します。2001年に会の財政基盤安定のための目標会員数400名を越え、「永年の課題」であった赤字体質も改善され、会員の皆様のご協力により、ここ数年は健全な歩みをたどっています。これまでは年末発刊の昆虫学評論(2号)の印刷代金および送料が次年度に支払われていましたが、2003年より発行が早まり、年度内に支払っているので隠れ負債もなくなりました。

2004年の次年度繰越金(約96万円)は2005年分の年会費として納入されたもので、実質的な黒字とはいえません。また編集委員の方々の頑張りで、昆虫学評論も増頁で充実し、ねじればねも02年7号、03年4号、04年4号と増刊し、それにとまなう印刷諸費も増額が続いていますので、財政面では十分とはいえません。年会費については経費節減につとめ、安易な値上げをせず、20年間据え置いてきましたが、検討しなければならない時期にきています。会の活動内容など、皆様のご意見を運営委員までお寄せいただければ幸いです。

紙面の関係で割愛されていましたが2003年(平成15年)分も遅くなりましたが、併せて報告いたします。(野村英世)

収支決算書

平成15年度(平成15年1月1日～同12月31日)

収入の部		支出の部	
会費	1,970,000	印刷費	
バックナンバー代	53,000	昆虫学評論58(1)・同58(2)	1,375,500
別刷代	209,000	別刷分	184,800
および著者負担金		ねじればね(No.104～107)	352,800
記念事業費よりの返金	8,000	会誌・会報郵送料	319,010
大会参加費	9,600	渉外費(交換雑誌, 別刷送料)	59,280
前年度繰越金	916,872	事務経費	6,200
		アンケート(受取払い経費)	8,945
		行事助成金(例会・大会・採集会)	43,480
		編集関係諸費	11,170
		次年度繰越金	805,287
	3,166,472		3,166,472

平成16年度(平成16年1月1日～同12月31日)

収入の部		支出の部	
会費	2,274,000	印刷費	
バックナンバー代	65,500	昆虫学評論59(1)・同59(2)	1,450,050
別刷代	379,750	別刷分	195,300
および著者負担金		ねじればね(No.108～111)	309,750
大会参加費	21,600	会誌・会報郵送料	417,120
前年度繰越金	805,287	事務経費(封筒・発送ラベル)	62,450
		行事助成金(例会・大会・採集会)	33,000
		編集関係諸費	21,320
		渉外費(分類学会連合分担金, 交換雑誌, 別刷送料)	75,660
		移送費(在庫会誌を六本脚へ)	16,630
		次年度繰越金	964,857
	3,546,137		3,546,137



にぎわう大会会場 (谷角撮影)

行), 4. 台湾産タマオシコガネ亜科の研究史および実際に分布する種について (益本仁雄ほか), 5. 誘引ピットホールトラップによる岩湧山の歩行虫類その季節的活動調査 (安井通宏), 6. 上翅の著しく短いオオハナノミ *Rhipiphorus* 属の日本からの発見 (初宿成彦ほか).

海外の話題あり, 地域に密着した調査の話あり, 特異な甲虫の紹介ありで, 内容はバラエティに富んでいました. モンゴルの自然や昆虫が美しい写真で紹介されたのを見て, 行ってみたいと感じた人は多かったでしょうし, 台湾の糞虫の研究が進行している様子を知ることができました. 地道な調査の話は面白味は少ないものの, 教えられるところが多く, マルテントウダマシをハケや筆で採集する話にも感心させられました. ハナバチに擬態したコバネ状のオオハナノミの話も強く印象に残りました. 未記載種ではまだ1頭しか採れておらず, 寿命は1日という海外の同属の仲間の観察例などは虫屋の探求心をくすぐりました.

閉会后, 18時より懇親会が天王寺の「桃谷楼」で行われました. まさに甲虫学会の忘年会で, アルコールが入るにつれ, 会場のあちこちで賑やかな歓声が上がっていました.

2002年の鞘翅学会との合同大会を経て, 2003年度より新しい形に進化した大会. 肩肘張らずに研究発表できる場として, また甲虫仲間と楽しく集える場として, よりたくさんの会員が積極的に参加してほしいものです. (谷角素彦)

ねじればね 113号 Nejirebane No. 113

2005年3月10日発行 10. Mar. 2005

発行者: 日本甲虫学会 (会長 佐々治寛之) The Japan Coleopterological Society

発行所: 日本甲虫学会 〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-23 大阪市立自然史博物館・昆虫研究室気付

Entomological Laboratory, Osaka Museum of Natural History, Osaka, 546-0034, JAPAN

振替口座: 00990-8-39672 URL: <http://www.mus-nh.city.osaka.jp/jcs.html>Tel: 06-6697-6221 Fax: 06-6697-6225 E-mail: shiyake@mus-nh.city.osaka.jp

編集: 水野弘造, 林靖彦, 谷角素彦, 初宿成彦, 保科英人, 伊藤建夫

ねじればね原稿送付先 (和文): 水野弘造 〒611-0002 宇治市木幡熊小路19-35 Tel.& Fax 0774-32-4929

E-mail: kzmizuno@oak.ocn.ne.jp (E-mailでの投稿を歓迎します)

入会および会費問合せ先: 野村英世 〒590-0144 堺市赤坂台1-18-5 Tel. 0722-98-4066 (年会費 5,000円)

昆虫学評論 原稿送付先 (英文): 吉川鮎美 〒534-0023 大阪市都島区都島南通1-17-1 大築商会